

令和 7 年度
豊玉中学校
学びの手引き

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

目次

	ページ
1 国語	1
2 数学	2
3 理科	3
4 社会	4
5 英語	5
6 音楽	6
7 美術	7
8 保健体育	8
9 技術・家庭	9

国語科 学びの手引き

1 国語科の目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質や能力を育成することを目指す。

2 授業について

- ・自分の考えを発表したり、人の意見を聞いたりして自分の考えを深める。
- ・毎週1回の漢字のテストを活用して、継続的、計画的に漢字力をつける。
- ・授業を聞いて、わかりやすいノートを作ること、自分の考えをしっかりと書いたノートを作る。
- ・作ったノートをもとに何を学んだかを振り返ったり、新たな課題を自分で探し、学びを深めたりする。
- ・音読や暗唱に力を入れ、声に出して古文や詩歌に親しむ。

3 家庭学習（予習・復習）について

★基礎の定着をしっかりとりたい人

(1)教科書本文

- ・教材の内容を理解するために、繰り返し読む。

(2)ノートの活用

- ・ノートを見ながら、授業内容を思い出したり、まとめ直したりする。

(3)漢字

- ・漢字ドリルの課題、200字以上の漢字練習を継続的に行う。

(4)ワーク（「新・基礎の学習」）・文法ワーク（「新文法ノート」）

- ・单元ごとにワークの問題を解き、自分の理解度確かめる。間違えた設問は、答えを見ながら考え直す。

★レベルアップを目指したい人

- ・授業の課題以外にも、自分の考えを進んで書く習慣をつける。
- ・課題図書だけでなく読書に力を入れ、読書を通して語彙を増やしたり、見聞を広めたりする。
- ・ノートの三段目の活用、毎回の振り返りの継続などを通し、主体的に学ぶ姿勢をもつ。

4 学習のポイント（試験勉強）

- (1)教科書本文を繰り返し読む。
- (2)ノートやプリントで重要事項を整理し、授業で学んだことを確実に身に付ける。
- (3)ワークで「問いによる答え方の違い」を確認する。（なぜ～？と聞かれたら、～からと答える等）
- (4)漢字テストで間違えた字を確実に書けるようにする。
- (5)課題を早めに終えて、間違えたところ、よく理解できていないところを重点的に復習する。

5 その他

- ・漢字検定は、年4回、本校で受検できるので、1年生は5級、2年生は4級、3年生は3級以上を目標に学習する。
- ・年4回の定期考査には、決められた課題図書から出題されているので、計画的に読書をする。
- ・「新文法ノート」「くりかえし漢字」の巻末にある「よく出る問題」（総合問題）を入試対策に活用する。

数学科 学びの手引き

1 数学科の目標

数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解し、数学的活動を通して、数学の良さを実感して粘り強く考えることができる。

2 授業について

- ・本時の目標を確認する。
- ・例題で基本的な解き方を理解し、それを使って問題演習をする。個人で考えた後、話し合っ解決問題もあるので、分からない問題は積極的に質問しよう。また、自分の考えを言葉にできるようにしよう。
- ・プリント演習で本時の内容が理解できたかを確認する。
- ・PDCA シートを記入する。

3 家庭学習（予習・復習）について

★基礎の定着をしっかりしたい人

- ・授業で学んだことをできる限りその日のうちにスパイラルなどを使って復習する。
- ・授業でやったプリントで間違えた部分を中心にもう一度解く。
- ・分からない問題は先生や周りの人に質問する。

★レベルアップを目指したい人

- ・問題集の応用問題を中心に何度も繰り返し解く。
- ・問題集などを購入し、色々な問題に触れる。
- ・入試問題に挑戦する。

4 学習のポイント（試験勉強）

- (1) 授業のノートやレポートなどから重要な語句や公式などを確認する。PDCA シートから自分の苦手な部分を把握する。
- (2) 問題集の試験範囲の部分を一通り解く。間違えた問題はチェックしておいて繰り返しやる。間違えた問題を別のノートに書き写しておくのも良い。
- (3) 問題集やネットなどから様々な問題を解く。

5 その他（注意）

- ・持ち物は教科書、ノート、ファイル、問題集。必要な場合は定規、コンパス、のりなど。
- ・少人数授業を行うので、教室移動をすばやくする。

<受験勉強の方法>

- (1) 1、2年生の復習を3年間の総まとめ問題集を使って行う。間違えたところはチェックし何度も繰り返す。
- (2) 過去問をなるべく早い段階でやってみる。問題の傾向を知る。
- (3) 基本的な問題で点数を落とさないように、まずは基礎を徹底する。

理科 学びの手引き

1 理科の目標

自然や身近な科学に興味をもち、自ら探求し考えて、表現することができる。

2 授業について

- ・課題に対しての自分の考えを構成する。
- ・周りの人の考えを聞き、さらに自分の考えを深めていく。
- ・知識を身に付け、活用できるように理科用語や科学現象の原理の説明を聞き、ノートやプリントに写す。

3 家庭学習（予習・復習）について

★基礎の定着をしっかりしたい人

- ・理科の基礎用語をしっかりと覚える。
- ・授業の内容をノートやプリントで振り返る。
- ・基礎的な問題（ワーク等）に取り組む。

★レベルアップを目指したい人

- ・発展的な内容の問題（ワーク等）に取り組む。
- ・教科書の章末や単元末についている問題に取り組む。
- ・身近な科学現象の中から自分が調べたいことなど探求する。
- ・教科書に示されている、「学びを活かして考えよう」を活用する。

4 学習のポイント（試験勉強）

- ・科学の原理や現象がなぜ起こるのかを、理科の用語を用いて詳しく説明できるようにする。
- ・理科の重要単語をしっかりと覚える。
- ・ノートや授業プリントを振り返り、内容の確認をする。
- ・ワークやプリントなどを2回、3回取り組む。間違えた問題のみ取り組むようにし、すべての問題が解けるように繰り返す。

5 その他（注意）

- ・理科室の授業のときは、早めに移動しましょう。
- ・実験の際は、手が汚れる場合があるためハンカチ等を持参しましょう。
- ・教科書やノートなど忘れ物をしないようにしましょう。

<受験勉強の方法>

- ・夏休み終了までに1・2年の内容を復習する。
- ・1年や2年のワークを秋までに3回程度取り組む。

社会科 学びの手引き

1 社会科の目標

社会的な見方・考え方を学び、現代社会についての理解を深める。社会のあらゆる事象について自主的に学習しようとする姿勢を養う。

2 授業について

- ・重要な用語を理解し、正しく答えられるようにする。
- ・様々な資料から情報を正しく読み取る。
- ・情報をもとに物事を考え、他者と考えを共有し深め合う。

3 家庭学習（予習・復習）について

★基礎の定着をしっかりしたい人

- ・事前に教科書を読み、予習を行う。
- ・授業の内容を繰り返し学習する。（赤シートなども使うことができる）
- ・ワークやeライブラリ等を活用し、アウトプットを行う。
- ・授業後にその授業を再現できるようにする。

★レベルアップを目指したい人

- ・入試問題などの発展問題を解く。
- ・テレビや新聞などでニュースを見て、世の中でどのようなことが起こっているのか知る。
- ・自分の興味や関心がある内容についてタブレット端末などで調べ、学習する。

4 学習のポイント（試験勉強）

- (1) 考查範囲の重要な用語を繰り返し書く練習をする。
- (2) 授業のノートやプリントで授業の内容を確認する。特に、授業を再現できるように確認することができる
と良い。
- (3) ワークやeライブラリを用いながら、アウトプットを行う。

5 その他（注意）

- ・自分の頭で考え、学習する。「知りたい」という気持ちを大切にしてください。

<受験勉強の方法>

- (1) 夏休み終了までに1・2年の内容を復習する。
- (2) 3年間のまとめ問題集等を計画的に学習する。
- (3) 秋以降は、過去に出題された問題や予想問題を解き、苦手分野を集中的に学習する。

英語科 学びの手引き

1 英語科の目標

語彙、文型などの基礎を身に付け、英語で表現し、コミュニケーションをする能力を養う

2 授業について

- ・新出単語を書き写し、教科書巻末で意味を調べる。(タブレット端末を使用することも可)
- ・教科書の本文をノートに正しく書き写す。
- ・授業中は、ペアワークやグループで行うことが多いので、積極的に参加しましょう。

3 家庭学習(予習・復習)について

★基礎の定着をしっかりしたい人

- ・授業で学んだことを、必ずその日のうちに復習する。さらに定期考査に向けて繰り返し復習をする。
- ・習った単語、英文を最低5回ずつ声に出して読む。
- ・習った単語を最低10回、英文を最低5回声に出しながら書いて覚える。
- ・授業で学んだ部分のワークやプリント(補助教材)を解いて、学習を深める。

★レベルアップを目指したい人

- ・教科書の内容について習った英語を用いながらアレンジストーリーを作成してみる。
- ・英語の映画を視聴してみる。(字幕は最初は日本語設定にして、英語に変えてみるのも良い)
- ・自分の知っているマンガや本の英語版を読んでみる。
- ・夢手帳を全て英語で書いてみる。
- ・英検にチャレンジしてみる。(合格を目指して進めていけるので、力がつきます)

4 学習のポイント(試験勉強)

- (1) 考査範囲の単語を声に出して読みながら書く練習をする。
- (2) ノートやプリントで文法事項を整理する。
- (3) デジタルテキストを用いながら、教科書を声に出して、正しい発音、イントネーションで音読する。
- (4) 教科書の英文を正しく書けるように、繰り返し書く。
- (5) ワークやプリントを用いて問題演習をする。間違えた英文を正しく書いて練習する。
- (6) 自分の参考書や問題集に取り組むことも効果的な学習方法!
- (7) 単元の目標・テーマ、表現に合わせ、英語で自己表現ができるようにする。

5 その他(注意)

- ・持ち物は教科書、ワーク(ジョイフルワーク)、ノート、ファイルです。必ず持ってくるようにしましょう。
- ・少人数授業を行うので、教室移動を素早くしましょう。

<受験勉強の方法>

- (1) 夏休み終了までに1・2年の既習内容を復習する。
- (2) 学校で配布される問題集(ワーク)等を計画的に学習し、冬休みまでに3回は繰り返し学習する。
- (3) 冬休み以降は、志望校で過去に出題された問題を解き、苦手分野を集中的に学習する。

音楽科 学びの手引き

1 音楽科の目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽の良さや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

2 授業について

- ・ 本時の目標を理解した上で、授業に臨む。
- ・ 自分の感じたことを、出来るだけ表現できるようにする。
- ・ グループやパートでの活動は、お互いに意見を出し合いながら協力して進める。
- ・ 聞く(聴く)、話す、演奏する、のメリハリをつける。
- ・ 自分にあった目標をもち、諦めずに取り組む。

3 家庭学習(予習・復習)について

★ 基礎の定着をしっかりしたい人

- ・ 授業で行った歌を練習しよう。
- ・ 作曲者や鑑賞曲について知ろう。
作曲者の思いを考えよう。(「なぜ、この曲を作った?」、「なぜ、この記号を使った?」、「曲の特徴は?」など)
- ・ 教育芸術社の HP (<https://www.kyogei.co.jp/>) には、教科書に載っている楽曲の鑑賞や、音楽の調べ学習ができるコーナーがあります。是非、家庭学習にも活かしてください。

★ レベルアップを目指したい人

- ・ 楽譜を読めるようになろう。身近なものではありませんが、音楽の力がつきます。

4 学習のポイント(試験勉強)

- ・ 試験範囲の中で重要となるポイントは、説明しチェックをしています。チェック忘れのないように、友達と確認もおきましょう。

5 その他(注意)

- ・ 授業数の少ない教科です。教科書類や提出物忘れのないようにしましょう。
- ・ 授業だけでなく、合唱コンクールや儀式の中で歌の発表をする場面もあります。歌唱の授業は、自己解放にもつながる大切な表現活動です。人前で表現することの苦手な人は、授業でのチャンスを活かしてみよう!

美術科 学びの手引き

1 美術科の目標

- ・創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てると共に、美術の基礎的な能力を伸ばす。
- ・想像力を豊かにし、自分の意見に自信が持てるようになる。また、他者の考えも認められるようになる。
- ・美術文化についての理解を深め、豊かな心を養う。

2 授業について

- ・作品制作では、完成まで見通して計画的に制作しましょう。
- ・鑑賞の時間は、積極的にクラスメイトの作品を見たり、話を聞いたりして、自分の想像力を深めましょう。

3 家庭学習（予習・復習）について

★基礎の定着をしっかりとりたい人

- ・配布したプリントや資料集で該当範囲を復習したり、制作のイメージを広げる。

★レベルアップを目指したい人

- ・授業で学んだことが生活のどこに当てはまるのかを考える。
- ・今まで授業で習得した技術を生かして、作品を作る。また、それを外部に公表し、評価を受け、自分の力を鍛える。

4 学習のポイント（試験勉強）

- ・授業プリントを用いて、道具の名前や技能について復習する。ただ単語を覚えるだけでなく、手順や技法の効果なども理解する。
- ・クラスルームに載っている授業資料を確認し、復習する。

5 その他（注意）

- ・基本的に教室移動です。チャイムで授業が開始できるように、遅れないよう移動しましょう。
- ・彫刻刀やニードル（針を太くしたもの）など、危険なものも扱います。授業で習った使い方を守り、安全に使ってください。
- ・クラスメイトとアイデアを共有する時間は意欲的に発言し、作業する時間は作品に向き合いながら集中して静かに制作しましょう。

保健体育科 学びの手引き

1 保健体育科の目標

体育分野

- ・運動の楽しさや喜びを味わい、運動や体力の必要性について理解し、基本的な技能を身に付ける。
- ・運動についての課題を発見し、合理的な解決に向けて考え、判断することができる。
- ・公正に取り組み、仲間と互いに協力し、一人一人の違いを認めようとする意欲を持つことができる。
- ・健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動できる。

保健分野

- ・個人生活における健康・安全について理解をする。
- ・生涯を通じて健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を送れるようにする。

2 授業について

- ・体育着を忘れずに持参する。
- ・保健体育の教科書、ステップアップ実技、保健資料ノートはロッカーに置いておく。
- ・見学する場合は、夢手帳に「見学理由」を書き、「保護者による自署」または「印」を押してもらって提出する。見学でも、できる範囲で授業に参加する。
- ・ペア学習やグループ学習が多いので、協力して意欲的に取り組めるようにする。

3 家庭学習（予習・復習）について

★基礎の定着をしたい人

- ・実技では、授業で教わったポイントを理解し、繰り返し練習する。
- ・保健分野では、授業プリントや保健資料ノートで復習する。

★レベルアップを目指したい人

- ・国際大会やプロの試合を観戦したり、動画配信を見たりして、技術や戦略を理解する。また動きをイメージして自分でも実際にやってみる。

4 学習のポイント（試験勉強）

体育分野

- ・各単元（スポーツ）の「歴史」「ルール」「コートの名称」「行い方」等を理解する。

保健分野

- ・授業中に教わったことや板書されたことを見返す。
- ・プリントや保健資料ノートを用いながら、繰り返し学習する。
- ・保健資料ノートの「学習のまとめ」や「まとめの問題」のテストを繰り返しやる。

5 その他（注意）

- ・体調を整え、元気よく参加できるようにしましょう。
- ・体育着忘れをしないように心がけましょう。
- ・怪我をしたとき、体調が悪いときは、無理せず教科担任に申し出ましょう。

技術・家庭科 学びの手引き

1 技術・家庭科の目標

生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度を養う。(技術)

生活の中から問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度を養う。(家庭)

2 授業について

- ・実習では、授業ごとの見通しをもち、取り組むようにしましょう。
- ・4人組での活動では、積極的に意見を出し、互いの意見を尊重しましょう。

3 家庭学習(予習・復習)について

★基礎の定着をしっかりしたい人

- ・教科書を使って配布資料の穴埋めをする。
- ・教科書を参考にワークノートの穴埋めをする。

★レベルアップを目指したい人

- ・生活に密接したニュースなど、世の中の出来事に目を向ける。
- ・授業で習得した技能をいかして作品を作る。
- ・身の回りの生活から課題を見つけ、その解決策をノートにまとめる。

4 学習のポイント(試験勉強)

- ・配布資料を参考に、自分なりのノートを作成する。
- ・ワークノートを反復練習する。
- ・クラスルームに載っている過去の授業資料を確認し、復習する。
- ・言葉の意味などは、友達に説明して覚える。お互いに説明し合うといいと思います。

5 その他(注意)

- ・技術も家庭科も教室移動があります。遅れないよう、速やかに移動しましょう。
- ・包丁やのこぎり、針など危険なものを扱います。授業で取り扱い方について説明がありますが、周囲に気を配りながら使ってください。
- ・裁縫セットの中身を紛失してしまう人が多いです。自分の持ち物には全て名前を書きましょう。